

第6回産業建設常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成28年6月21日（火）午前10時0分
- 2 閉会日時 平成28年6月21日（火）午後1時36分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
3番 澤 健君 4番 保田 守君 6番 治徳 義明君
8番 行本 恭庸君 12番 佐藤 武文君 17番 金谷 文則君
- 5 欠席委員
なし
- 6 説明のために出席した者
市長 友實 武則君 副市長 内田 慶史君
産業振興部長 有馬 唯常君 産業振興部政策監 中村 昌孝君
建設事業部長 水原 昌彦君 建設事業部参与兼 岩本 良彦君
上下水道課長
赤坂支所長 正好 尚昭君 熊山支所長 入矢五和夫君
吉井支所長 荒島 正弘君 商工観光課長 是松 誠君
農林課長 若林 毅君 建設課長 石井 徹君
都市計画課長 杉原 洋二君 赤坂支所 歳森 信明君
産業建設課長 矢部 恭英君 吉井支所 平井 直人君
産業建設課長
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 奥田 吉男君 主 幹 黒田 未来君
- 8 審査又は調査事件について
 - 1) 議第43号 平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）
 - 2) 議第44号 平成28年度赤磐市宅地等開発事業特別会計補正予算（第1号）
 - 3) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（治徳義明君） 皆様、おはようございます。

ただいまから第6回産業建設常任委員会を開会いたします。

開会に先立ち、友實市長より挨拶をお願いいたします。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、おはようございます。

本日は、本当にお忙しい中、第6回の産業建設常任委員会をお開きいただきましてまことにありがとうございます。

本日の御審議いただく案件でございますけれども、6月定例会市議会に上程させていただいております議第43号の一般会計補正予算並びに議第44号赤磐市宅地等開発事業特別会計補正予算、この2件を御審議いただくとともに、28年度の事業の進捗状況を御報告させていただくことになっております。

この機をいただきまして、報告が2件ございます。

まず、5月29日に開催いたしました、岡山県消防操法訓練大会、これには赤磐市の代表として吉井方面隊第1分団第3部が出動いたしました。皆様方には、温かい御支援と御声援を賜りました。まことにありがとうございました。この場をおかりしてお礼を申し上げます。成績でございますけれども、6位入賞までは公表されておりますが、残念ながらその6位には及ばずですが、非公式ながら9位という成績を御報告いただいたところでございます。消防団員一同頑張ったということで、皆さんで喜びを共有しているところでございます。今後とも赤磐市消防団に対しまして温かい御支援、御協力をお願いしたいと思っております。

もう一件でございますけれども、机の上にお配りさせていただいておりますが、油井宇宙飛行士の講演会が開催されることが決定いたしました。この油井宇宙飛行士、ついせんだってまできぼうのほうに乗りまして、宇宙飛行士として帰ってきたばかりでございます。この経験を赤磐市の皆さんに語っていただいて、宇宙に対する夢、今後のまちづくり等にも役立つようなお話がいただけるということで予定しております。日本全国でも、数件しか講演会の予定が組まれておりません。そういう中で、この赤磐市が選ばれたということで非常に喜ばしいことと喜んでおります。皆様方にもこの記念すべきイベントをお知らせして、できることなら御参加いただければと思ひまして御案内をさせていただきます。なお、この予定、7月22日でございますけれども、この日程で確定ということで進んでおりますが、JAXAの都合等で変更となる可能性もわずかにあるということだけ申し添えての御報告にさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

それでは、これから委員会の審査に入ります。

当委員会に付託された案件は、議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）及び議第44号平成28年度赤磐市宅地等開発事業特別会計補正予算（第1号）の2件であります。

それでは、まず議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）を議題として、これから審査を行います。

執行部からの補足説明がありましたらお願いいたします。

なお、説明は補正予算書及び説明資料のページを言ってから行うようお願いいたします。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬産業振興部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）について補足説明がありますので、担当課長のほうより説明申し上げます。

○農林課長（若林 毅君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、若林農林課長。

○農林課長（若林 毅君） それでは、補正予算書の10ページ、それから説明資料の12ページからごらんください。

議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）について御説明をします。

6款農林水産業費、1項農業費、3目農業振興費でございます。この補正の理由につきましては、強い農業の確立プログラムの展開を図る中で、農業後継者の確保と高品質な農産物の生産を支援するため、体験圃場や実証圃場を備えた赤磐市就農等支援センター、仮称でございますが、の設置に関する基本構想策定に当たり、県農林水産総合センター未利用地の活用を検討するため、同用地の測量及び鑑定評価に要する費用を算定する経費等を計上させていただいているものでございます。補正額については666万3,000円で全て委託料でございます。用地測量業務委託料179万1,000円、土地鑑定評価委託料76万1,000円、造成設計業務委託料411万1,000円でございます。事業の内容につきましては、県の未利用地の用地測量、土地の鑑定評価、造成に要する経費を算定するというものでございます。

本日お配りしております資料の3ページをごらんください。

第2次総合計画の強い農業づくりプログラムの施策展開として設置を検討しております就農等支援センターにつきまして、農林課のほうで考えておるイメージを資料として作成しておりますので、御説明をさせていただきます。

まず、航空写真のほうをごらんください。

黄色の枠で囲った部分が県の未利用地となっている農地でございます。その中で、今回就農等支援センターの活用候補地としまして赤い線で囲った部分を計画をしております。青色で着色した部分には事務所や駐車場、倉庫等を整備し、オレンジ色で着色した部分には体験圃場や実証圃場を整備するという計画を考えております。

それでは、左側の運営主体等の説明をさせていただきます。

運営主体につきましては、一般社団法人赤磐市就農等支援公社、これはまだ仮称でございますが、こういう公社を立ち上げて取り組むとしております。

以上の内容につきましては、新規就農者の確保、育成、担い手の育成、経営改善、農地の集積、連担化等でございます。構成員は赤磐市、JA岡山東ほかを考えております。実務につきましては、市のほうから派遣職員2名、JAのほうから派遣職員1名、農地中間管理機構から職員1名ということで立ち上げを予定をしております。

次に、概要でございますけれども、機能としましては、農地取得、住宅、経営などの総合的な支援、就農等研修、農業経営塾の開催、就農等に関する各種制度の情報提供、営農支援等に必要な施設や設備と。

(2)番として施設でございますけれども、今のところ事務棟、処理加工・集出荷貯蔵施設等、体験圃場、実証圃場、資材等倉庫、駐車場、調整池等を考えております。

次に、3の費用等でございますが、用地につきましては、県農林水産総合センター実験圃場跡地を想定しております、今後県との調整が必要でございます。

取得の手續につきましては、市のほうが測量、鑑定を行いまして、取得予算のほうを上程すると。県のほうでは公有財産審議会のほうに諮問し、県議会のほうに処分議案を上程していただく。その後、市のほうが農地転用等の協議を行いまして、許可を受けて県から市のほうへ所有権の移転というような手續になるかと思えます。

次に、費用でございますけれども、用地取得につきましては今後県との調整が必要でございますが、面積と、それから環境センター等の取得単価等を勘案しまして試算したところ、約1億8,000万円程度かかるのではないかなというふうに試算しております。

次に、造成工事でございますけれども、これも今後設計してみないとわかりませんが、現在試算している額で申し上げますと、盛土工につきましては1億6,500万円、舗装工につきましては2,000万円、水路工につきましては2,000万円、合計で2億500万円程度を試算をしております。

次に、事務所等の施設でございますけれども、こちらについては公社が資金等を調達して整備をするというふうに考えております。手續としましては、市と公社のほうが土地の貸借契約を結んで公社が資金を調達しまして整備をすると。費用については今後公社のほうが検討をしていくというふうに考えております。

次に、右側の下でございますが、今後のスケジュールの見通しとしましては、測量、鑑定に係る予算の審議をしていただきまして、その後、可決していただいた後には速やかに測量、鑑定、設計に着手をしていきたいというふうに思っています。公社設立に向けた基本協定や基本構想の策定、取りまとめ、公社の設立、用地取得等予算に係る予算の審議等をお願いするようになるかというふうに思っております。

それから、就農等支援センターのイメージですが、次のページ3-1ということでお示しさせていただきます。これは4月19日の産業建設常任委員会のほうで配付をさせていただいたものですので、説明のほうは省略をさせていただきます。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○委員長（治徳義明君） 引き続きお願いします。

是松商工観光課長。

○商工観光課長（是松 誠君） 続きまして、商工観光課関係平成28年度一般会計補正予算（第2号）について説明させていただきます。

補正予算書の10から11ページ、説明資料の14から15ページをごらんください。それから、本日お配りしております資料の12ページもごらんいただきたいと思います。

初めに、オールあかいわ宣伝隊事業でございますが、平成27年度一般会計補正予算（第5号）の専決にて地方創生加速化交付金事業に前倒し計上した経費1,300万9,000円を減額するものでございます。事業内容につきましては、平成28年度一般会計当初予算にて説明させていただきましたとおりでございます。

次に、吉井川流域広域観光連携事業でございます。

補正額は500万円、財源としましては国庫補助金を250万円、一般財源を250万円を計上しております。国庫補助金につきましては、新型交付金で財源の2分の1が交付税算入される予定でございます。事業内容としましては、赤磐市、和気町、瀬戸内市が連携し、広域的な観光地域づくりにより観光客を呼び込み観光による地方創生に取り組むための組織づくり等を行うもので、平成27年度第5号補正予算において専決、承認されました地方創生加速化交付金による事業をさらに展開させるため、設定する広域周遊観光ルートについて海外等のメディアによるPRを実施するための経費などを地方創生推進交付金を活用して計上するものでございます。観光市場の調査、分析と広域周遊ルートの開発及びプロモーション費用に300万円、多言語対応型の受け入れ環境の整備、案内看板等でございますが、これに200万円の支出を予定しております。

以上でございます。

○委員長（治徳義明君） 水原建設事業部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） 建設事業部のほうも議第43号一般会計補正予算につきまして、都市計画課、建設課のほうから説明がでございます。それぞれ担当課長から御説明申し上げます。

○委員長（治徳義明君） 杉原都市計画課長。

○都市計画課長（杉原洋二君） 一般会計の補正予算のほうの説明をさせていただきます。

議案のほうの11ページ並びに説明資料の14ページ、15ページ、あわせまして本日お配りをしております産業建設常任委員会の建設事業部と書きました資料の1ページのほうをごらんくだ

さい。

まず、土木費、都市計画費、都市計画総務費、委託料でございます。事業計画の作成委託料として108万円の増額を予定いたしております。これにつきましては、JRの熊山駅前の周辺整備の実施に当たりまして、平成21年3月に策定をいたしました基本計画について社会情勢、周辺環境の変化に伴う事業規模の見直しが必要となっております。これらをコンサルタントに委託するための経費として108万円を計上するものであります。その内容ですが、計画を策定した平成21年3月当時は駅前を含め、その周辺約1.75ヘクタールに多目的スペースなどを備えた駅前広場を計画し、その事業費につきましては約12億円を想定しているものでございました。その後、平成22年9月の議会で、まずは雨水対策を先行して行い、広場整備につきましては財政的な問題で凍結を表明させていただきました。これにより今年度雨水対策が完成することから事業を再開するものであります。今回整備の予定をいたしております駅前広場の事業ですが、駅前約2,000平米程度に交通処理能力をアップする車のロータリー、乗りおり場、駐輪場、休憩所などを整備するよう考えております。

次に、議案の11ページのほうなんですが、歳入のほうといたしまして150万円を減額いたしております。これにつきましては、今年度予定いたしております空き家の実態調査費用300万円の財源につきまして当初予算では国の補助金を150万円、2分の1相当を予定いたしました。これにつきましては、この事業が地方創生新型交付金の補助対象外となったことから一般財源へ振りかえを行うものでございます。予算の編成時には具体的な採択要件が示されていなかったもので、今年度になりまして県の担当課のほうとヒアリングを行う中でこの事業につきましては対象外であることが判明いたしました。不足した財源につきましては、現在県と改めて財源確保に向けて調整中であることを報告させていただきます。

都市計画課につきましてはの説明は以上です。

○建設課長（石井 徹君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、石井建設課長。

○建設課長（石井 徹君） 一般会計補正予算につきまして御説明をさせていただきます。

まず、議案書の11ページ、補正予算書説明資料の9ページ、10ページをごらんください。

8款土木費、2項道路橋梁費、1目道路維持費でございますが、今回国からの内示額が当初予定していた額よりも多く割り当てがありました。それに伴い、施設点検委託料を670万円増額補正するものでございます。

続きまして、議案書11ページ、補正予算説明資料の9ページ、10ページ及び産建委員会の資料の2ページをごらんください。

こちらのほうも8款土木費、2項道路橋梁費、3目道路新設改良費でございますが、27年度末より関係者と協議を進めてまいりました道路のほうにつきまして大筋理解が得られましたので、改良工事を行うものでございます。こちらは、県道御津佐伯線と山口工業団地内の市道八

ツ塚中央線の合流部分の交差点改良を行うための用地の判定手数料30万円の増額補正を行うものでございます。

続きまして、同じく議案書の11ページ、補正予算説明資料9ページ、10ページ、資料の2ページ及び3ページをごらんください。

8款土木費、2項道路橋梁費、3目道路新設改良費でございます。先ほどの市道八ツ塚中央線道路改良に伴う用地測量の費用のほうを120万円、及び岡山県が行う正崎地内の砂川右岸改修工事に関連する市道正崎熊崎線の新設工事に伴う用地測量費を890万円、計1,010万円の増額補正を行うものでございます。

続きまして、同じく議案書11ページ、補正予算説明資料の9ページ、10ページ、資料の2ページ及び3ページですが、8款土木費、2項道路橋梁費、3目道路新設改良費でございます。こちら市道八ツ塚中央線道路改良の用地の購入費280万円、市道正崎熊崎線道路新設の用地購入費のほうを960万円、計1,240万円増額補正をするものでございます。

建設課からは以上です。

○委員長（治徳義明君） 執行部の説明が終わりました。

これから質疑を受けたいと思います。

質疑はございませんか。

ただいまの説明の中でということでもいいと思いますけど。

澤委員。

○委員（澤 健君） 農業振興費、10ページの666万円の件なんですけれど、これについて本議会でまずは就農等支援センター、その場所を決めたわけではないというお話がありましたけれど、それについてはもう決めたわけではないという理解でよろしいのでしょうか。それとも、これで決めるという考えなのでしょうか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

若林課長。

○農林課長（若林 毅君） 今回、その用地測量や土地の鑑定評価等を行いまして、県のほうと協議をしまいりますので、現在もうここに決まったわけではございません。これから協議を進めるというものでございます。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 次に、費用のほうですが、前回の産業建設委員会で全体計画を出してほしいということで、それに対応するものを出していただいたということでありがたいなというふうに思っております。費用のとなんですけれど、事務所等の施設、これは公社が資金等を調達して整備ということなんだけど、新しくできた公社が信用がない中で全く赤磐市がそれにタッチせずに、保証とかをせずに借りれるというのは考えにくいので、そうだとすれば当然この事務所等の施設の整備についても市が一定の責任を持つということが前提になると思うん

です。そういうふう考えたときに、概算としてこの施設、事務棟、処理加工・集出荷貯蔵施設とか倉庫とか、または駐車場とか調整池とかありますけど、大体概算どのくらいを考えてらっしゃるのか教えてください。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○農林課長（若林 毅君） はい。

○委員長（治徳義明君） 若林課長。

○農林課長（若林 毅君） 施設等の概要につきましては、現在基本構想を策定しておりますので、まだそれができておりませんので金額等も今のところは算定ができていないということでございます。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） それから、当然これから補助金というものを用地取得においても、それから造成工事においても考えていかれると思うんですけど、どういう補助金がどの程度見込まれるというようなお考えがあるのかどうか、それを教えていただけますか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 用地取得に係ります財源のお話をいただきました。現時点ではこの補助金を充てるという具体的な事業の内容はございません。本市にとりまして有利な財源の確保を進めてまいりたいと考えております。今現時点で想定しておりますのは、地方債の充当ということを考えております。

○委員長（治徳義明君） ちょっともう一遍言ってください。

○産業振興部長（有馬唯常君） 地方債の充当を考えております。

○委員（澤 健君） 特に納得いくのはない。

○産業振興部長（有馬唯常君） 現時点ではありません。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

澤委員。

○委員（澤 健君） それから、農業、大事なもので新規就農も大事なことなんですけど、今後道の駅とかも考えられると言われてるんですけど、農業政策にどれだけのお金をかけて、そのうち就農センターにどれだけかけようとされてるのか、なぜそういう程度の比率を考えたのか市長に教えていただきたいなと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 農業に対しては、これは赤磐市の第2次総合計画にも議論をして赤磐市の方向性を定めているわけでございます。その中で、就農支援を行い農業後継者を確保す

る、あるいは赤磐市の特産物の強みを生かして農業の収入増を狙うというようなことを掲げてこの拠点づくりを行うという位置づけをしているものでございまして、その拠点づくりの柱の一つが就農等支援センターというふうにお考えいただきたいと思います。そして、これに投資する金額はいかほどかということでございますけれども、これについては先ほど説明したように用地費あるいは設計等に関する費用は、大概算ではございますけれども、御紹介したとおりでございます。建物については、機能はきょう説明したような機能を持っていくわけでございますけれども、この機能を果たすための詳細な建屋等の構造等まだ検討中でございますので、全体投資額というのがはっきりはしておりませんが、これについては有利な補助金あるいはさまざまな有利な財源を用いて実施していこうということで検討しているところでございます。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 澤委員、よろしいか。

澤委員。

○委員（澤 健君） 今回、この就農等支援センターをつくることによって、今までも新規就農おられるんだけど、大体どのくらいふえるというふうにお考えになってるのか教えていただけますか。それが1人当たりのどれだけこう、例えば50人ふえるとすればそれが今回かかる、用地の造成だけでも4億円かかるわけですけど、それに1人当たりのコストってのは出てくると思うんです。そういう発想ってのは必要だと思うんですけど、どの程度ふえるというふうにお考えになってるんでしょうか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） 新規就農の数につきましては、総合計画の中で目標指標のほうに示しております。今後5年間で60人、1年当たり12人ということで、この5年間のうちで60人ということを目指してくという計画でございます。この数字自体は県でも同じような新規就農、要はリタイアしていく人を埋めていくという考え方で計算された岡山県の計画とも整合性がとれているものでございます。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 今これも決めたわけではないということで、これから県との協議やってという話を言われてますが、これ何らかの理由が、特別な理由があれば別ですけど、そうでない場合、県と協議して途中でやめた場合に県のほうの信頼を失うっていうようなことはないんでしょうか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 県との信頼関係のお話をいただきました。現在お話を進めておる中では、こちらの考えとしまして就農等支援センターの活用ということでお話を進めております。相手の県側の御意向もいろいろあるかと思えます。今現時点ではそういうことでお話を進めておりますので、御理解のほうよろしく願いいたします。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 農業者の方に聞くと、新規就農者っていうのは耕作放棄地などの厳しい環境で農業せざるを得ない、県の未利用地の平坦地で作業した場所で研修しても意味がないんじゃないかっていうことを言われる方がいるんだけど、実際県の未利用地以外の候補もいろいろコストとか作業性とか比較、検討されてると思うんですけど、ほかの候補はどのようなところを考えて、その検討内容について教えていただけますか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） 農業者の方からそういうお話があるということもあると思いますが、これから農業は、今まではどっちかという商工業とはまた別の世界のこのような部分あったと思いますけど、これからはどうやって経営するかという意味では、ある意味企業とか民間事業者というような意味も十分あると思います。そういう方々がしっかりもうけていくことが大事だということになればもちろん中山間のような場所に押し込むというのではなくて、もっと平坦な場所を、もっと生産に対して有利な場所、もうけやすい場所、そういったものを確保して行って、そこに新しい方にどんどんいろんな野菜なりお米でもつくっていただいてそれでもうけていくという形を目指していくちゅうのが大事なことだと思っております。必ずしも新規就農だから山のほうの耕作放棄地だけを宛てがうというそんな考え方にはならないと思っております。今回は、その就農を支援するための実証ですとか体験圃場ということでございますので、そこは県の未利用地が早目に使えると、さまざまな所有権の方が持っている土地をまとめてそこをお借りするとかというのではなくて、もともとまとまった土地が使えるかと、活用を考えられませんかというお問い合わせもありましたので、そこをお借りするのが一番、この総合計画も20年、30年の計画ではありませんし、この5年間の中でできることをやっていくという意味では意味のあることかなと思っております。

○委員長（治徳義明君） 他の候補地は検討したんかというような御質問もありましたけど。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） そういう意味では他の候補地という意味では、まとまった面積があるというようなことを考えますと、なかなかその比較対象になるところは……。

○委員長（治徳義明君） そこしかなかった。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） はい。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） つまり検討されなかったっていうことですね。造成費用だけでも4

億円かかるんだけどもうここでやろうと、決め打ちされたという理解でよろしいわけですよ。つまり県のほうからそうやって未利用地を使ってくれないかと、そりゃ県のほうはそういうふうに言ってくるだろうけど、その中でも決め打ちをされたという理解でよろしいですか。

○委員長（治徳義明君） 答弁。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ほかの場所の選定と比較してというお話かと思えます。この、仮称ではありますけども、就農等支援公社、こちらで取り組みます機能、こうしたものを考えますと、新規就農者だけの取り組みでなく、就農支援という分野におきましても取り組んでいくように考えております。こうしたことを考えますと、市内におきます農大、こうしたところが隣接した土地でありまして、この公社の従来目的としております活動に一番効率的かつ有効な土地であるという判断からこの事業推進のほうを考えております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 本年の4月の産業建設委員会ではまだこの話が出てこなかったと思いますし、生産者会議の中でも特に候補地について議論をされたという経緯はないと思うんですけど、急に5月の委員会で場所が決まってこの面積なんかも決まって出てきたのはなぜそういうふうになったのかっていうのは不思議なんですけど、それを教えていただけますか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） これまで経営・生産推進会議での議論それから委員会での御報告と昨年12月より協議を重ねてまいりました。お手元にお配りしております4月19日の委員会資料3-1ページでございますけども、こちらの上段の④番のところでも県の総合センターの未利用地と、こちらを活用していくということでお話を進めてきたものでございます。ですから、突然このようなお話が出てきたのではなく、こういう県の未利用地の活用というお話をいただいた中で機会があるごとに御説明を申し上げてまいりました。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 最後なんですけど、先ほどお話がありましたように基本構想の策定っていうのに今年度やるということで3月の予算に出されて、今その策定をされてる最中ですよ。今おっしゃったように、その土地とか建物、事務所はどのくらいのを建設するかっていうのそこで出てくる、だから費用については先ほど市長が言われたようにわからないという話に今なってるわけです。通常から考えると、基本構想の策定を行って、そしてその就農支援

センターっていうのは非常に大事ですけど、具体的に今回この土地とは関係なくいずれにしてもどこかの場所に設立されて準備をされていくわけですから、その中でいろいろ多くのことがわかってくると思うんです。ですから、そういう基本構想の策定されてどのくらいの費用が全体でかかるのか、つまり新規就農とかそれ以外の要素もあるにしてもどんなにお金をかけてもいいっていうことにはならないと思うんです。ですから、その意思決定、今言ったように県との協議もあるし、始めたらなかなかこれやめるってわけにいかないと思うんです。そうやってきたら総額の費用がどれだけこの新規就農とかそういうものにお金をかけて、そして実際立ち上がってくる中でいろいろわかってくることもある、先ほど言ったようにその耕作放棄地で練習するということも必要だと思うんです。そういう数億円の投資を造成だけで4億円で、補助金についても何だかよくわからないっていう話の中で、もうやるっていうふうに判断するってのは時期尚早だと思うんですけど。今言ったような基本構想をきちっと決めて補助金はどのくらいもらえるのか、全体の投資としてはどのくらいになるのか、それがわからない中でとにかく造成の設計とかそういうのだけ始めましょうっていうのはおかしいと思うんですけど、執行部はそう思われませんか。市長の回答求めます。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 友實市長。

○市長（友實武則君） この就農等支援センター、新規だけではなくて既に就農している方々も対象にした就農支援を行う機能を持つわけですけども、この就農支援センターの候補地としては県の農林水産総合センターのすぐ近所ということもあって、ここが最適地だという考えでございます。そうした中で、実証圃場も持ちながらやるとしたらまとまった土地が必要です。そういったところで県の申し出のあったこの赤で囲んでいる区域、ここを赤磐市のほうで取得してそういった目的で活用していくということを考えているところでございますので、この中の土地の利用の仕方、レイアウト、それについては今後しっかりと詰めていきたいというふうに思っているところでございます。いずれにしても、ここが赤磐市の農業を支える拠点の地という位置づけで臨むことができればということで、今岡山県とも協議をさせていただいているところでございます。岡山県の決定というのは、県の内部の検討の結果でございますので、ここで決めていますと断言できないのが今の現状でございます。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 澤さん、最後で。

○委員（澤 健君） ええ、これ最後。ええ、いや、もう回答は結構なんですけど、私としては拙速だと思って非常に危険だと思ってるので、申しわけないんですけど、これこの部分については賛成しにくいと言わざるを得ない。回答は結構です。

○委員長（治徳義明君） そのほかに質疑ございませんか。

支援センター以外もしてくださいね。

はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） 同じ場所のところにやりますけど、この土地を見て用地を取得するために設計費用がここに書いてありましたな、76万1,000円見とんか。これ前回のときに消防署それから今のごみセンター、あれ何ぼ使うたかな。まず、その答弁お願いします。わかりませんか、わからんことなかるう。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ごみ処理施設のときの買収ですけども、2億7,600……。

○委員（行本恭庸君） 平米単価で言うてえ。

○産業振興部長（有馬唯常君） 平米単価ですか。平米単価のほうは資料の3ページのほう見ていただけたらと思います。3ページの下のほうの3-1の②の費用のところは環境センターの実績ということで、平米8,000円の単価を盛り込みまして概算1億8,000万円という数字を上げております。

○委員（行本恭庸君） いやいや、じゃから8,000円はわかるんじゃけど、前買うた分何ぼかというて言よんじゃ。今あんたら試算しとんのは8,000円でしとんじゃ。な。じゃあけど、現実には消防署も何ぼで買って、ごみのとこ何ぼで買うたかというのを聞きよんじゃ。そんなことここへ書いてあるじゃろ。書いてねえとこ聞きよんじゃ。

○委員長（治徳義明君） それは平米で答えてくださいということですね。

○委員（行本恭庸君） 平米で答えりゃあええ。

○産業振興部長（有馬唯常君） 平米でね。

○委員長（治徳義明君） わかりますか。

○産業振興部長（有馬唯常君） ちょっと……。

○委員（行本恭庸君） わからな後で調べといてくれてもええけど。

○委員長（治徳義明君） 暫時休憩します。

午前10時42分 休憩

午前10時44分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 消防署のほうの以前での価格という御質問いただきました。消防署のほうは6,559円ということです。それから、環境センターのほうにつきましては、お手元の資料のほうでお示ししております、平米単価8,000円という価格になっております。

以上です。

○委員（行本恭庸君） そうかな。6,600円何ぼ。

○産業振興部長（有馬唯常君） 6,559円。

○委員（行本恭庸君） 6,559円。

○産業振興部長（有馬唯常君） 6,600円ほど。

○委員（行本恭庸君） ああ、6,600円でええわ。じゃけえ、これのときの……。

○委員長（治徳義明君） いや、もう再開してますんで手を挙げてお願いします。

○委員（行本恭庸君） じゃから、6,600円ということなんじゃけど、そのときの鑑定、同じ県の土地じゃから続いとる。どっちかというたら逆に言うたら奥じゃから安うてもええはずじゃけど、何で8,000円で組まにゃいけんの。6,600円ほどでくれとるものを何で8,000円で組まにゃいけんのんなら。理解できんじゃねえか、おめえ。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） このたびお示ししております数字につきましては、あくまでも概算での数字ということでお示しさせていただいております。金額の交渉、こうしたものが煮詰まってきましたら正確な数字をお伝えできるかと思っております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 相手が県であって、まだ買うてから何年も、4年ほどのもんじゃろ、4年たつまあがな、消防署。それより高い値段で見積もること自体がわしゃ理解できんがの。県が8,000円でなけりゃくれんのか。そんなもんじゃなかろうが。それとおめえ、前鑑定士使うて出しとるわけじゃろ。その8掛けじゃったとわしゃ記憶しとんよ。もっと安うくれるんじゃねえかなと思うたら8掛けじゃ言うたと思う。じゃから、これ逆に6,600円を8掛けで割りゃあじゃな、評価が出てくるはず。それにしても8,000円にはならんはずで。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ただいま御指摘いただいたように8掛けというお話もあろうかと思えます。その8掛けのお約束が今県のほうともできてないような状況でありますので、あくまでも概算ということでお示しさせていただきました。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 8掛けじゃないにしても、例えば前に評価しとるわけじゃから、鑑定士入れて。その単価で100%買うたとしても8,000円にはならんと思うんじゃ、わしは。何でそ

ねえ高え値段でこれを買わにゃ、まして、へえからこの土地自体がな、わしに言わせたらこんな農業関係のところへ使うのもったいない土地じゃわ。もっとほかのところで安いところを探してしたほうがわしはええと思う。ここは赤磐市として、わしが思うのはもっと土地を2.2ヘクほどじゃ足らんけど、そりゃ市役所でもあの辺持っていくというならまだわしや理解できるけど。農業のことじゃからこれ金かけてみたっていいことになりゃせんと思うよ。これを少々50人や60人人間がふえたからというて赤磐市の農業どれだけ変わるんな、そう変わらんと違いますよ。やることはそりゃええ、前向きでやることは。じゃけど、この場所にこれだけ金をかけて、へえでまだ建物の金のはっきりせん。せえから、今言う、今はっきりしとんのは3億8,500万円ほどかかるんじゃという話じゃけど、それで地方債で対応するんじゃと。全額地方債でできるもんでもなかろうし。ほんなら当面、市の一般財源が何ぼかかるんか、そういうところも話をせにゃあ、ただ地方債だけで、言われるのは地方債何ぼで借りれるんな。へえで、その交付税算入があとどのくれえの率のもんで地方債されるんか。地方債、地方債というてもいろいろあらあな。もうちょっとそういう説明をしていただかにゃあ。この場所のもったいないからこねえなもんに使うということは私は賛成できんな。

○委員長（治徳義明君） いいですか。答弁求めましょうか。

答弁をお願いします。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ただいま御指摘のいただきました質問について回答させていただきます。

庁舎というお話も先ほどの御質問の中にありましたが、私どもで庁舎のお話をするのは非常に大きな問題であろうかと思っております。あくまでも総合戦略に基づきます展開のお話をする所管の私どもといたしましては、そうした施策の実現に向けて就農支援センター、こうしたものが農家の方々それから生産者の方々から御意見を頂戴しながら取り組むべき課題であるということで、その有力候補地としてこの土地を検討しておるような状態でございます。財源につきましても御指摘をいただきました。明確にこの地方債というところをお示しできれば本日御回答させていただこうかと思っておりましたが、現時点で具体的にこの地方債を充てれるというものもございません。補助金等もいろいろ検討しましたが、土地の取得部分についての補助ということも今時点でははっきりしておりません。いずれにしましても、そうした予算、こうしたものをまた議会のほうにお願いするような機会までには明確に精査してお示ししていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（行本恭庸君） はい。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） そのような中途半端なまだわからんものを見切り発車でするようなことにゃあ認めるわけにいかん、これは。もうこの問題は結構です。もうこれでやめます。

○委員長（治徳義明君） そのほかに。

○副委員長（保田 守君） はい。

○委員長（治徳義明君） 保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） ここを決めるとかそういう問題を一番最初に支援センターをやろうというときに、この間もちょっと話したとき言ったんですけど、これはプレハブで施設をつくるような計画を今イメージ図ということでここへ出とんですけども、赤磐市の既存の今までの施設が随分ほったらかしになって使ってないところあります。そういうものを基本的に活用しようという考え方は、始まりの部分でそういう考え方、意見というものはなかったんでしょうか。

そこら辺ともう一つ確認なんですけど、この間の議会の質疑の中で市が買って農協のほう、JAのほうへ転売するとかというようなことになるみたいなことを懸念しとった人もおられました。そういうことは私は確認として絶対あるのかないのか、なければそりゃもうはっきりありません言うてもらやあいんですけども、そういうことを言われとった人もおり、議会の中ではっきりお聞きいたします。よろしく。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 2点お尋ねがあったと思います。この土地におきましてほかの市の所有する建物の検討のお話がございました。あくまでもこの就農支援センターの候補地として今考えております。その候補地として選んだ理由といたしますのが先ほども担当課長のほうから御説明申し上げました農業振興を図るために体験圃場でありますとか実証の圃場、こうしたものを兼ね備えたものが必要であろうということで経営・生産対策推進会議の中でもお示しいただいておりますので、こうした取り組みを実現させるためにはこうした土地が必要であろうということで候補地に上げております。

それから、土地の転売のお話をいただきました。この土地につきましては、あくまでも赤磐市のほうが買い取るということでお話を進めておるような状況でございます。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○副委員長（保田 守君） はい。

○委員長（治徳義明君） 保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） 私も行本委員の言われたように、この土地を買って、仮にこの支援センターがまだ検討段階ということで、この土地は今さっき言われたように、農業も大事なことはわかるんですけども、航空写真で見たらようわかるんですけど、なかなかこういう消防

署があり、利便的にも道を直していき、非常にいいとこだと思うんです。将来の赤磐市のために買うというなら、それは賛成なんですけども。支援センターをここにというのが、他の検討の余地というのがまだ残されているんじゃないのかなと、そのように思います。この事業はもうちょっと検討していただきたいなと思っております。

それと、強い農業の確立のプログラムということで裏へ書いておられるんですけど、具体的な計画の、もう7月ぐらいからかかるとかということなんですけど、後ろに公社を立ち上げて支援センターをつくって進めて地域商社を立ち上げて、流通を地元のを地産地消で図っていくとかというように書いとんなんですけども、こういう具体的な計画を、5年の中じゃたらどういうような計画でしていくんかというのもびんとこんので。一番下へ書いてる部分のほったらかしになつとる農地を使うとかというようなことが、格好のええ話じゃなしに、一番下のほうへあるようなことが、耕作放棄地というのがもうすごいところじゃから、そういうもんが前面に出てきてこの計画をやるとかというんならようわかるんじゃけど。

何かその辺の具体的な筋道の計画みたいなのがあったら教えていただきたいと思うんですけど。

○委員長（治徳義明君） はい、有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） まことに申しわけありません。今後の展開についてということで、今回はお配りしていませんが、さきの委員会等でも資料添付させていただいております。強い農業の確立プログラムの展開方向とスケジュール案ということで、本日お配りしております3-1の資料と同じようなレイアウトでタイムスケジュールを示したものを前回の委員会でも報告させていただいております。ただいま御審議いただいております就農支援センター、こちらにつきましては、公社の設立を平成28年度、それから地域商社の分野におきましては平成29年度に設立、それから農地農村環境保全支援センター、こちらにつきましては平成28年度に立ち上げということで、委員会のほうで御説明申し上げてきておるところでございます。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○副委員長（保田 守君） はい。

○委員長（治徳義明君） そのほかに質疑ございませんか。

○委員（佐藤武文君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 今さまざまな同僚委員からもいろんな意見が出ておりました。その中で、この就農支援センター、強い農業の確立のプログラムについては、ことしに入ってから強い農業のプログラムの関係についていろいろなプログラムについての説明がありました。そのときに、説明をされたのは前産業振興部長の、今議会事務局長におられる奥田部長のほうから我々個人個人の議員に対してヒアリングをされて、このことについての説明があったと思うん

です。その説明を受けて経営・生産対策推進会議においていろいろその中でも議論をされておるといふことで、その経営・生産対策推進会議には治徳委員長と澤委員が入られて、農業関係者、あるいはそういうふうないろいろな赤磐市の農業にかかわっておられる重鎮の方々とも一緒に議論されて今回のこの予算の提出に至っておるといふんです。

その中で、我々担当委員会においてもこの事業についての推進については反対をしておりません。そういうことで、私を含めて全ての委員がこの事業の推進について私は賛成をしておられたと思っております。その推進をするに当たってそのかわりの予算が、全ての予算ではないんですけど、一部の予算が出てきたら場所が悪いとか単価的な問題がよくないとかやり方がよくないとか総事業費が見えないとか、いろいろな個々の委員の理由はあると思うんですけど、そういうふうな個々の理由はいろいろあるかもしれませんが、これから将来にわたっての赤磐市の農業はどうあるべきかということの中で、一つの方策として就農支援センターを設置して強い農業の確立をやっていこうという計画があるわけなんです。その計画そのものを我々議会が否定するということがいいのか悪いのかということについては考えなければいけないのではないかなというふうに思います。

そういうことの中で、よくその辺を考えていただいて御判断をすべきではないかなと。これから農業を考えていく場合において就農支援センターの中にいろんな問題が網羅された中で計画をするということによってプログラムができております。そういうことを含めた中で、総合的によく我々委員会としても考えなければいけないのではないかなと。経営・生産対策推進会議で決まったことを我々議会が反対だということについては私にはいいのか悪いのかということが一つ大きな問題として残るんじゃないかなというのがあります。また、この対策推進会議においてのいろいろな出た意見を、我々委員会としても議長の提案によって集約した意見のもろもろを、我々は資料として提出をしていただいて見させていただいております。そういう意見も含めて、そういうふうな偏った判断をされるのはいいのか悪いのかということをよく私は考えていただきたいなということをお願いさせていただきます。これはよろしいですから。

○委員長（治徳義明君） 意見でよろしいですか。

そのほかに。

澤委員。

○委員（澤 健君） 今佐藤委員から意見があったんですけど、私はおっしゃるとおり、経営・生産対策推進会議でゆっくりこれについて議論すべきだと思います。今まで就農支援センターをつくるということについては議論があったけれど、場所をどういうところにしてどのくらいのお金をかけてみたいな話は、そういう細かい議論っていうのは一切今までないと思うんです、生産者会議で。まさに生産者会議でこそ先ほど農業者の方が言われてるように、そういう耕作放棄地とか、そういうところで練習するのがいいのか、そういうことも含めていろいろ皆さんのお考えを聞いて、そしてどういう場所に決めていくかということについて相談していくべき

だというふうに考えます。拙速です、今は。

○委員長（治徳義明君） 済みません、今の経営・生産対策推進会議の概略だけ、今までの過程だけ説明しとってもらえますか。何回やってどうしたというのは。

中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） 赤磐市の経営・生産対策推進会議でございますけれども、赤磐市の告示で定められて、赤磐市の農業振興をどう考えていくかというものを検討するために農業者の方、あと県も入っています、農協さんも入ってます、あと商工会の方、あと若手の農業後継者の方々に入ってもらってます。さらに、各地区の区長さんの代表の方にも入ってもらってる、大体30人ぐらいの会議でございます、昨年の12月に総合計画で強い農業づくりの確立プログラムというものを決定いただきましたので、それに基づいて具体的にどうその中身をほぐして実現していくかということで、昨年の12月14（後刻訂正）日に初めて会議を開きました。その後2月4日に第2回目の会議を開きまして、そのタイミングで今回の大きな素案というものをお示しさせていただいてます。3回目に3月24（後刻訂正）日でございますが、その間に委員の方の御意見ですとかそういったものをアンケートの形で取りまとめました。そこで、3月24（後刻訂正）日でおおむねの方向をいただいたということで、4月の産業建設委員会のほうにこういった議論をしまいりましたという御報告をいたしました。その上で、5月に入りまして一応パブリックコメントということで、2週間ほどでございますが、ホームページに掲載をさせていただいてます。あわせて認定農業者の方90名、あと農業委員会の関係の方30名、あと直売所の方等に直接議論していただいた資料をお配りして、そもそもそういう支援センターが要るのか要らないのかという部分も含めてアンケートをいただいております。その結果、具体的なところはこの後の報告の中で出てきますけれども、そういった経過をたどっております。

○委員長（治徳義明君） 途中ですけれども、11時15分まで休憩といたします。

午前11時4分 休憩

午前11時14分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

他に質疑はございませんか。

はい、中村政策監。

○産業振興部政策監（中村昌孝君） 先ほど私、答弁の中で経営・生産対策推進会議の日付を2カ所間違えておりました失礼いたしました。第1回目は12月14日ではなくて12月16日ございました。失礼いたしました。あと、第3回目が3月24日ではなくて3月23日ございました。失礼いたしました。あと、もう一点補足でございますけれども、この経営・生産対策推進会議の中で第2回の中では出席の委員さん全員にこの一つ一つの中身について御意見を丁寧に伺っているというような経緯もございます。そんな中で、こういった3つの柱でやっていこうと

ということについては賛成の御意見をいただいたと考えております。

以上でございます。

○委員長（治徳義明君） 他に質疑はございませんか。

○副委員長（保田 守君） はい。

○委員長（治徳義明君） 保田副委員長。

○副委員長（保田 守君） 先ほども申したんですけど、この土地じゃなくても建てるのはいんじゃないかとか、それぞれ思いはあります。大もとでここがこの支援センターをつくるについて選んだ理由というんか、執行部の中でも他のぎょうさんの土地でいろいろ検討あるけど、ここが絶対この農業の支援センターやるんだからこの場所なんだという思いがあると思うんで、そこら辺を聞かせてほしいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

内田副市長。

○副市長（内田慶史君） この就農等支援センターの土地利用の関係につきましては、御承知のとおり県で唯一の農業試験場が近接にございます。こういったことから県の農業政策との連携も非常にとりやすいということもございますしそういったメリットもありますので、こういったことを赤磐市にとって有利さがございますので、ここの位置を将来の赤磐市の農業ゾーンとして最適であるというふうなことで土地利用につきましては判断をいたしております。

それから、先ほども用地買収の単価につきましても御指摘等をいただいているところでございますけれども、この800万円の単価につきましては、環境センターを買収いたしました事例でございます。これはあくまで概算でございます。このたび予算のほうに不動産鑑定の評価費用も計上させていただいております。地価のほうは最近下落傾向にございますけれども、こういった鑑定評価をもって今後単価につきましては精度を上げて確定をしてみたいというふうに考えております。

それから、財源につきましては、これも御指摘のとおり、今後有利な交付金とか補助金等々につきましては、最大限の確保の努力をしなければならないというふうに考えております。そういった中で、合併特例債も一つの財源であるということでもひとつ今後考慮をしてみたいというふうに考えております。

私のほうからは以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

ほんなら、私のほう1点確認なんですけども、県の未利用地、もし赤磐市が今回購入を検討するという形なんですけども、そういうことが仮になかった場合、どういうふうな形になっていくとお考えですか。このままずっとほっとくというような感じなんですか。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） この未利用地の件につきましては、このたびお膝元であります赤磐市のほうにどうかというお話をいただいております。このお話が断ち切れになるようでしたら県としましては多分次の展開のほうに進んでいくものであろうということで、本市以外のところでの売却のお話が進んでいくであろうと思われま

す。

○委員長（治徳義明君） 要は、赤磐市が買わなければ民間に売却する可能性もあると、ということですか。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 再度御答弁をさせていただきます。

県の用地ということでございますので、一般公募というような形で売却の進められるであろうと考えております。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 少し補足させていただきます。岡山県からは先ほど部長が申し上げましたように、赤磐市のほうへ利用する予定はないかという意向確認が来ております。それ以外のことは県のほうからは伝わってきてはおりませんので、その次の段階以降の話は一般論として伺いいただけたらと思います。県からそういう意思を伝達いただいたわけではございませんので、誤解のないようにお願いいたします。

○委員長（治徳義明君） 質問も一般論の質問ですん

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（治徳義明君） よろしくお願

いに質疑ございませんか。

行本委員。

○委員（行本恭庸君） 今も副市長が農業ゾーンの最適地やというて言われとるけど、それでお金の工面については合併特例債も視野にあるような今の話がされたわけじゃけど、その前の説明のときには起債じゃあという話で、合併特例債のそういう話は一つも出てこなんだ。副市長が出して担当部長が何を考えとんですか、おめえ。副市長が答弁できるようなことを、あんた、それ知らんということは不思議でかないません、私。じゃから、この土地を買うのはそりゃ私は大賛成ですよ。この就農等支援センターをつくることもそりゃ賛成です。しかし、ここへつくることは私はもうちょっと考えにゃいけんというふうに思います。じゃから、場所はもっとほかに赤磐市のと思うて、こんなとこ農業の施設をしなくてももっと安いとこで、未利用地のとこを検討したほうが私はいいと思いますが。じゃから、拙速過ぎるわな。もうそれだけです。

○委員長（治徳義明君） 答弁は求めます。

○委員（行本恭庸君） よろしい。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

他に質疑はございませんか。

○委員（佐藤武文君） 予算について。

○委員長（治徳義明君） はい。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 予算の道路新設改良費の関係で計画はされております。この市道正崎熊崎線とそれから市道八ツ塚中央線です。これはいつから用地買収あるいは測量等に入られるんかね。その辺の計画、これからの計画をお伺いしたいんです。というんが、常に執行部のほうは地元との調整云々というようなことで明許繰り越しにされたり日延べをされることが多々今までの計画の中であるんです。この事業についてのこれから先の計画についての説明をしていただきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設課長（石井 徹君） はい。

○委員長（治徳義明君） 石井課長。

○建設課長（石井 徹君） 先ほどの件にお答えします。

用地の測量とか買収の件につきましては、議会の議決後、金銭面のほうが決定してから現地のほうへ行って交渉をしながら工事を進めていきます。予定としましては、今年度中に用地測量を行いまして、単価を決定して用地買収を進めていく予定です。それに伴って来年度以降で工事着手ということで建設課のほうは考えております。

以上です。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 要するに、用地、土地の購入費もこの予算の中に上がっておる中で、今年度中に測量設計をして用地買収に入りますというのは、これは明許繰り越しありきの話をもう執行部のほうは既にされとるような内容じゃないんですか。だから、私はいつまでにこういうような計画をされておるのかということをお伺いしたんで。今の課長の答弁では、今年度中に測量設計ということは、そこまでしか今年度中に進まないというふうな解釈になってしまうんです。それでは事業をせっかく立ち上げてやろうということの中で、消極的な考え方になってしまうんで、その辺をもう一度答弁いただきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設事業部長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） まず、正崎熊崎線の今後の予定について御説明申し上げます。

現在、砂川改修の関係で県のほうが用地測量を行い、買収単価まで事務が進んでおります。赤磐市のほうといたしましても、同じ地権者になるという可能性が非常に多い場所がございますので、県のほうの今後のスケジュールに合わせて極力そういう方向でいきたいというふうに考えております。県のほうの買収単価につきましては、近々に発表があるやに聞いておりますが、まだ現段階ではこちらのほうへ届いておりませんが、極力県のスケジュールに合わせて乗りおれないようにやっていきたいというふうに思っております。

それから、八ツ塚中央につきましては、年度末に地権者の方と合意が得られたということで、予算可決後、至急に測量設計のほうに入っていきたいというふうに考えております。繰り越し云々を前提ではなくて年度内完了のほうを目指していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 次の点についてお伺いしたいんですけど、今回熊山の駅前開発の予算が出ております。その関係で108万円の予算が委託料の関係で出ております。それで、前は駅前周辺を含めて、先ほどの説明があったように、12億円で壮大な計画ができとりました。その図面私も見ておりますし、その内容についても知っております。そのようなことの中で、今回説明によりますと、2,000平米の駅前の、ここに写真に写っておる場所をいろいろな使用目的に従って解消するという事なんですけど、せっきく周辺を整備しても駅舎そのものが非常に古いというようなところの中で、今回の計画の中に恐らく入ってないだろうと思うんですけど、何ぼかというのではなしと、駅舎をある程度修繕をする計画はあるのかなのか、そのことについてもお伺いしたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○副市長（内田慶史君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 内田副市長。

○副市長（内田慶史君） 熊山の駅前の整備につきましては、先ほども担当課長のほうからも説明がございましたように、合併当時の経緯を踏まえまして行政の継続性ということもございまして、事業のほうを再開をしたいというふうに思っております。

この駅につきましては、皆さん御承知のとおり、赤磐市の東の玄関口の位置づけとなっております。1日当たりの平均の利用の乗降者数は1,300人といった状況でございます。それで、資料等を見ていただきますと、現状は利便性それから安全性、快適性、そういったものが極め

て低い状況にございまして、こういった改善や向上を目的に今後段階的な整備を図りたいというふうに思っております。

先ほども説明をいたしましたとおり、今回のプランの概要といたしましては、整備面積が約2,000平方メートル、それからそういった中でロータリーとか駐車場、休憩所、公衆トイレ、外灯、それからできれば大型バス等の通行可能な道路を配置したいというふうに考えておりました、概算の工事費といたしましては、4件の家屋の支障移転とか解体、それから農地がございしますので、そういった費用もろもろ超概算的でございますけれども、2.5億円から3億円弱ぐらいかかるんじゃないかなというふうに考えております。

そういった中で、財源につきましては、これも合併特例債を充当したいと、考慮したいというふうに考えております。

○委員長（治徳義明君） 金額を、済みません、もう一度お願いします。

○副市長（内田慶史君） はい、金額については2億5,000万円から約3億円弱ぐらいと概算的には見込んでおります。

そういったことでございますので、このたびは平成21年当時の計画を見直しまして、先ほども申し上げましたように、計画の精度を上げるための事業計画の策定費108万円を補正計上させていただきます。この成果をもって今後当委員会にも詳細な細部説明、そして御意見のほうを賜りたいというふうに考えております。

J Rの駅舎につきましては、今後J Rさんのほうと協議ということで考えております。

以上でございます。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） ありがとうございます。

平成21年度のときには、駅舎の改修も実はこの計画の中に入っておったんです。今回は駅前のそういうふうな利便性等々を含めた中での改修ということで、J Rの駅舎については、J Rとの協議をしたいということで、恐らくJ Rは駅舎については負担金を出していただけないと思うんです。恐らくこれは赤磐市が負担せざるを得ないような形に私、なると思うんですね。多分そういうふうな形になるのではないかなというふうに思えるんですけど。そういうことをJ Rともできれば半々ぐらいにさせていただければ一番よろしいんですけど、多分そういう話にはならないのではないかなというふうに思います。

そういうことの中で、今後とも駅舎の改修については頭の中に入れて事業の推進をしていただくことを要望させていただきたいというふうに思います。答弁結構です。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

他に質疑はございませんか。

○委員長（治徳義明君） はい、行本委員。

○委員（行本恭庸君） 建設のほうの用地費を2カ所組んどりますよね、八ツ塚線と正崎熊崎線、これの平米単価280万円と、へえから市道正崎熊崎線じゃな、これは県のほうが近々に今買取単価を出すということで、出せば恐らく同じ単価になるんじゃないと思うんですけど。今予算で組んだる890万円と280万円の用地費の平米単価を教えてください。

それと、わかれば今の、測量してないからわからんのですが、道の勾配が今よりはきつうになりますわね。じゃから、どの程度の勾配になるんか、わかればそこまで説明願います。

○委員長（治徳義明君） 石井課長。

○建設課長（石井 徹君） 先ほどの質問なんですけど、平米単価のほうですが、市道の八ツ塚中央線につきましては、平米当たり約2,800（後刻訂正）円ぐらいを見込んでおります。これもそれを上限で話をしようと思えます。正崎熊崎線につきましては、上限を4,000（後刻訂正）円で今予定を組んでおります。

先ほどの勾配の件なんですけど、メインのスロープという主の道なんですけど、12%、道路構造令の一番最大、急なんですけど、それで見込んでおります。県道にすりつく部分の交差点部分なんですけど、ここの平地部分をなるべくとりたいたいということで、ここは多少勾配つくんですけど、約2%強ぐらいの勾配で平地の部分の部分を設けてます。

以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

他に質疑は。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 吉井川流域広域観光連携事業のことについて、もう一度このことについて詳細に説明をいただきたいんです。赤磐市が主体的に事務局を持って、主導権を持った中で運営をするというような発言も執行部の中からあったと思うんです。そういうことがどこら辺まで事業の推進が進んでおるかということについてを含めて説明いただきたいと思えます。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○商工観光課長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） お尋ねの件でございますが、現在赤磐市が中心となりまして、瀬戸内、和気の2つの市町の関係職員がたび重ね会合をしております。その中で、この事業の本旨であります準備会の設立のための協議を行っております。現在のところ、その準備会の規約それから事務手続の最終調整に入っております段階です。7月には準備会を発足させるような予定に今のところなっております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） この予算については、赤磐、瀬戸内市と和気の議会が補正予算で上げられて、その予算が可決後そのことについて加速をして業務推進に当たるということでよろしいんですか。

○委員長（治徳義明君） 是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） はい、今御質問のとおりでよろしいかと思ます。はい。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（佐藤武文君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） その中で、赤磐市が主体性を持って事業推進に当たられるということなんですけど、瀬戸内市、和気町に比べてこの赤磐市の観光資源というものが非常に少ないんではないかという危惧をしております。そういうことの中で、新たな、英国庭園だけではなしと、赤磐市の観光資源という開発を今後計画をされる予定があるのかなのか、そのことについてお伺いしたいと思ます。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○商工観光課長（是松 誠君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） 赤磐市の観光資源が少ないということで御指摘でございます。実際今広域で連携をしようとしております和気町、瀬戸内市と比べれば数的には確かに少のうございます。その中で、先ほども説明させていただきましたが、周遊ルートの作成であるとかということを考えまして、和気、瀬戸内を含めた赤磐の観光ということで進めていきたいと思っております。その中で、赤磐市内の新たな観光資源としましては、今後発掘の予定であります。それにつきましては、先ほども申し上げました海外等からの誘客のための雑誌記者等のプロモーションを行いまして、そのあたりで発掘をしていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） これお願いになるんですけど、ぜひ赤磐であったら桃とブドウ、要するに「種まく旅人」の映画を活用した観光地の誘致ということをぜひ取り組んでやっていただきたい。これをPRに使わないということは私はないと思んです。ぜひそういうことを取り組んだ中で桃とブドウを海外の方にぜひ賞味していただいて、すばらしいという印象を持っていただいてそのことを持ち帰っていただくということを実現していただくように要望をしておきたいというふうに思ます。

○委員長（治徳義明君） 答弁結構ですか。よろしいですか。

関連してちょっと確認なんですけども、瀬戸内市、赤磐、和気町なんですけども、一部備前市が吉井川沿いにはあるんだらうと思うんですけども、備前市がなぜ入っていないのか、今後そういう検討もされるんか、その辺の答弁をお願いします。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ただいま御指摘をいただきましたように、備前市との関係でございます。備前市のほうもそういう取り組みは多分されておるかと思いますが、そちらのほうの動きも非常に観光地として大きな市でございます。ただいま担当課長が申し上げました赤磐、和気、瀬戸内、こうしたところから広域観光連携事業に取り組みのお話が立ち上がりました。将来的にはこの岡山県東部におきます市町、こうしたところも含めまして取り組みの輪が広がっていけばと考えております。ただいまの進捗状況、先ほど是松のほうで申し上げましたけども、まだそうした組織の立ち上げの準備会という段階でございます。こうしたタイミングで赤磐市の観光資源、こうした掘り起こしも取り組んでいかなければならないという状況の中でございますので、今後そうした声かけも進めていけたらと考えております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 他に質疑はございませんか。

○建設課長（石井 徹君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、石井課長。

○建設課長（石井 徹君） 済みません、先ほど行本委員さんの質問の平米単価なんですけど、資料を見間違えて勘違いしておりました。訂正させていただきます。市道八ツ塚中央線につきましては、1平米4,000円を見込んでおります。正崎熊崎線につきましては、1平米の単価を3,000円ということで見込んでおります。誤りでした、済みませんでした。訂正します。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

他に質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） なければこれで質疑を終了いたします。

続いて、議第44号平成28年度赤磐市宅地等開発事業特別会計補正予算（第1号）を議題として、これから審査を行います。

執行部からの補足説明がありましたらお願いいたします。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 議第44号平成28年度赤磐市宅地等開発事業特別会計補正予算（第1号）について補足説明がありますので、担当課長のほうより説明申し上げます。

○委員長（治徳義明君） 是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） それでは、補足説明を申し上げます。

補正予算書宅の6、説明資料22から23ページ。それから、本日お配りしとる産業振興部の資料の12ページをごらんください。

平成28年度宅地等開発事業特別会計補正予算（第1号）につきましては、熊山地域、小瀬木の工業用地開発事業でございまして、補正額は1億9,660万円でございます。財源としまして全額起債借入れを予定しております。事業内容としましては、優良企業を誘致するための用地総面積約2万9,250平方メートルを確保するための土地購入に係る費用を計上するものでございます。現在土地の権利者の方々を戸別訪問いたしまして、大方の御了解をいただいております。資料14ページに計画平面図をつけておりますので、そちらのほうもごらんください。

以上でございます。

○委員長（治徳義明君） 執行部の説明が終わりました。

これから質疑を受けたいと思います。

質疑はございませんか。

澤委員。

○委員（澤 健君） 今ここに候補の企業とか、そういう話っていうのは、言いにくい面もあるかもしれませんが、可能な範囲でもしおわかりになれば教えていただければ。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） 現在のところ、具体的にここへという個別の企業の案は持ち合わせておりません。ただ、この新聞報道とかこの場所についての問い合わせは数件ございました。

以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

他に質疑はございませんか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 今回の3ヘクタールの中で実質的に敷地面積として使える土地が1.7ヘクタールになるわけです。調整池はその中であるわけなんですけど、この調整池については地元との調整の中でこの調整池の大きさというものが4,130平米ですか、に決まったということなんでしょうか。

へえから、緑地はもちろんとらなければいけないんですけど、7,320平米も緑地が要るのかどうかということを確認をさせていただきたいんです。要するに利用地が1万7,800平米になるわけなんで、非常に使うほうからしてみれば中途半端な大きさなのかなというふうな感じも

しますので、その辺を説明をいただきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○商工観光課長（是松 誠君） はい、委員長。

○委員長（治徳義明君） 是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） ただいまの御質問ですが、まずこの図面につきましては、地元協議でたびたびお示ししております。調整池の面積につきまして、図面に示しておりますように、深さ2メートルという設定で今つくっております。今後委員御指摘のとおりこの用地をふやすためには調整池の深さの調整ですとかというものは詳細な測量、設計が済んでから進めていきたいと思っております。

それから、緑地に関しましては、そこの右上の肩のところに面積率という表で25%と表示してあると思います。ここへ仮に製造業が入った場合、緑地を25%確保しなければならないということで、これも仮ですが、こういう表示をしております。業種によって変わってきますので、ここらもまた企業の公募等の段階で変わってくるかとは思っています。

以上です。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） ということは、緑地と調整池については、今後変わる予定もある、来られる企業によって変更もあり得るという判断でよろしいのでしょうか。

○委員長（治徳義明君） 答弁を求めます。

○商工観光課長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） はい、今後詳細な測量、それから立地する企業によりまして変化していくと思います。

以上です。

○委員長（治徳義明君） よろしいか。

○委員（佐藤武文君） はい。

○委員長（治徳義明君） 他に質疑ございませんか。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） なければこれで質疑を終了いたします。

それでは、ただいまから本委員会に付託されました議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）及び議第44号平成28年度赤磐市宅地等開発事業特別会計補正予算（第1号）の2件について採決したいと思います。

まず、議第43号平成28年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）について、これを原案のとおり

り決定することに賛成の方は起立お願いいたします。

〔賛成者起立〕

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。起立少数です。したがって、議第43号は否決すべきものと決しました。

続きまして、議第44号平成28年度赤磐市宅地等開発事業特別会計補正予算（第1号）について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は起立お願いいたします。

〔賛成者起立〕

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。起立全員です。したがって、議第44号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で当委員会に付託されました議案の審査は全て終了いたしました。

次に、閉会中の継続調査及び審査についての御確認をお願いしたいと思います。

お手元に配付しております継続調査及び審査一覧表のとおり、議長に対して閉会中の継続調査及び審査の申し出をしたいと思いますが、これでよろしいでしょうか。

よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。それでは、このように申し出したいと思います。

なお、委員長報告については委員長に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

次に、その他に入ります。

その他で委員さん、または執行部から何かありましたら発言をお願いいたします。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 事業の進捗状況につきまして、農林課、商工観光課、それぞれ担当課長のほうより御説明を申し上げます。

○委員長（治徳義明君） はい、若林課長。

○農林課長（若林 毅君） それでは、産業振興部資料の1ページをごらんください。

農作物被害防止対策ということで、防護柵の設置の関係でございますが、前回の委員会でも御説明させていただきましたように、見積書については2社から1社に変更をさせていただくと、また補助の上限単価を設定しまして施工延長を掛けた額、それと提出していただいた見積額の低いほうの額を補助対象事業費とするということにさせていただいております。また、ワ

イヤーメッシュの施工につきましては、縦設置また横設置、どちらでもよく、設置方法については制限をいたしません。そのように取り扱いを行います。それから、補助金の交付申請につきましては、地域の創意工夫を生かした取り組みや効率的な整備等を支援するために、行政区の代表を申請者としております。個々の設置要望を取りまとめまして、共同設置の調整をしていただくことで効率的で効果的な防護柵の設置が図られますので、申請者につきましては引き続き行政区の区長さんのほうの代表の方をお願いしたいというふうに思っておりますので、御理解のほうよろしく願いいたします。

それで、資料の4ページのほうをごらんください。

この防護柵の設置事業の実施に当たりまして、区長さんのほうにこの実施基準というものをお示ししまして取り組んでいただくようにしております。今回の改正につきましては、2の補助の基準についてという中の1)番の事業主体の中のポチの2番目、1社の見積書の提出をお願いしますというふうに変えております。それから、3)番の補助上限単価についてということで、メーター当たりの上限単価を示しまして見積書と補助上限単価の低いほうを補助の対象としますということで示させていただいておりますので、ごらんいただきたいと思います。

それから次に、また2ページのほうへ戻っていただきたいと思います。

強い農業の確立プログラムの取り組みについてということでございます。

まず、就農等支援センターにつきましては、現在協議いただきました。今後についてはまた検討をしていきたいというふうに思っております。

次に、地域商社につきましては、当面の行政支援につきましては、今後国の交付金を活用するというのを考えております。地域再生法に基づく地域再生計画及び地方創生推進交付金の申請を現在進めているところでございます。

また、地方創生加速化交付金事業につきましては、ICT技術を活用しまして、品質確保に係る実証調査を行う企業のほうを現在募集をしております。

次に、農地・農村環境保全支援センターについては、7月中に立ち上げのほうを予定しております。

資料の7ページのほうをごらんください。

強い農業の確立プログラムの展開をする中で、あかいわ農業戦略(案)というものを策定してパブリックコメントまたアンケート調査をしております。パブリックコメントのほうはゼロ件でございましたけども、アンケートにつきましては148の個人や団体に送りまして28の回答があったことを、回答の内容、意見の内容をまとめておりますので、ごらんいただければというふうに思います。

それから次に、9ページのほうをごらんください。

地域商社の設立に向けた検討状況ということでまとめております。

地域商社につきましては、地域商社公募選定委員会のほうを立ち上げまして事業のイメージ

を作成しまして、民間企業のほうを公募したいというふうに思っております。事業イメージに沿って事業内容や経営方針等を提案していただきまして、その後、地域商社公募選定委員会や中小企業診断士の審査を経まして、地域商社のほうを決定したいというふうに思っております。地域商社が行う事業につきましては、ブランド化、地産地消、地産外消などを考えております。行政側の支援としましては、創業支援でありますとか、人材の確保育成支援、資金調達支援等を考えております。今後のスケジュールでございますが、6月に地域商社公募選定委員会を立ち上げまして事業のイメージを作成したいというふうに思っております。7月に公募をかけまして、9月に選定委員会、中小企業診断士等の審査を行いまして、10月に地域商社のほうを決定しまして、市と協定のほうを締結するというようなスケジュールを見込んでおります。

次に、10ページのほうをごらんください。

松くい虫防除の空中散布の実施区域と未実施区域での状況がわかるものということでございましたので、今回地図と写真のほうをつけさせていただきました。これは、吉井地域の実施地域でございます。青く塗った部分が空中散布を行っている部分で、このあたりには松のほうが現在も存在しております。それから、真ん中の一番下、和気町分という写真がありますが、ここについては空中散布のほう実施しておりませんので、松のほうが枯れて幹の状態になっているというものがわかると思います。ごらんいただけたらと思います。

次に、また2ページのほうへお戻りください。

日本野菜ソムリエ協会との連携についてということで、野菜や果物の魅力につきまして高い発信力を持っている日本野菜ソムリエ協会の自治体パートナー制度を活用しまして、本市の特産物の白桃やブドウ等の魅力を発信してもらい、ブランド化、高付加価値化を通じた本市の農業所得の向上、後継者の育成、地域ブランドの確立を図れるように協議をしております。

7月上旬にパートナー制度の認証をいただくように現在目指しておるところでございます。このソムリエ協会というものにつきまして11ページのほうに参考資料をつけております。

野菜ソムリエにつきましては、野菜、果物の知識を身につけ、そのおいしさや楽しさを理解し伝えるスペシャリストになるために、日本野菜ソムリエ協会が認定する資格でございまして、生産者と生活者のかけ橋となるということを使命とされております。現在国内には資格取得の方が5万人以上いるというふうにお伺いしております。活動につきましては、食生活の見直し、料理教室、野菜セミナー講師、食育活動、コラム執筆、レシピ提案等の活動を行われております。この日本野菜ソムリエ協会につきましては、一般社団法人でございまして、理事長が福井栄治様、理事は王理恵様、松野貞文様ということでございます。

今回の市のほうが目指しております野菜ソムリエ自治体パートナー制度というものをまとめております。概要につきましては、全国の野菜、果物の魅力を広く発信し地域を活性化していくことを目的とした自治体と日本野菜ソムリエ協会のパートナー制度というものでござい

す。このパートナー制度に登録しますと、各地域の青果など特産物のプロモーション活動を初めまして地域振興などを目的とした各種活動において優先的に協会のコンテンツや全国の野菜ソムリエと連携することができるというものでございます。現在のところ、7つの県と9の市、地域でこのパートナー制度のほうに登録をされているものでございます。

それからもう一点、資料のほうはないんですが、先般赤坂地域で熊の目撃情報がありました。6月10日に目撃されたということで、夕方議長のほうから連絡をいただいております。6月11日土曜日に県や近隣区長、教育委員会、猟友会等に連絡をさせていただいております。また、赤坂地域、吉井地域には防災無線で注意喚起のほうを行っております。翌6月12日日曜日には県の環境保全事業団と猟友会等と現地の調査のほうを行いました。熊の痕跡は発見はされませんでした。しばらくの間……。

○委員長（治徳義明君） ちょっと待ってください。

暫時休憩します。

午後0時0分 休憩

午後0時1分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開します。

○農林課長（若林 毅君） はい、済みません。

○委員長（治徳義明君） 最後まで。

○農林課長（若林 毅君） 6月12日に現地調査をしましたけれども、熊の痕跡は発見されませんでした。しばらく様子を見るということの指導をいただきました。また、注意喚起、情報提供をしていきたいと思いますということで指導を受けましたので、6月13日月曜日、14日火曜日に赤坂、吉井地域に防災無線で注意喚起と情報提供のお願いのお知らせをさせていただいたところでございます。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

途中ですけれども、13時まで休憩とします。

午後0時1分 休憩

午後1時0分 再開

○委員長（治徳義明君） それでは、再開いたします。

是松課長。

○商工観光課長（是松 誠君） 続きまして、3番の進捗状況について商工観光課関係のものを報告させていただきます。

本日の産業建設常任委員会資料の12ページをごらんください。

(1)番、吉井川流域広域観光連携事業につきましてでございますが、赤磐、瀬戸内、和気の3市町の関係職員が準備、開設するための打合会を4月以降たび重ね開催しております。現在、規約等事務手続の最終調整に入っており7月には準備会を発足させて早期に事業着手でき

るように努力してるところでございます。

1枚はぐっていただきまして、13ページで(2)番、農山漁村おみやげ農畜産物販売促進事業につきまして、お土産拠点のPRのためのモニターツアーを計画するに当たりまして、IPUと協働し、熊山英国庭園内で校外ゼミを開催するなど、学生、中には留学生もおられます、教授を含めて若い方々のアイデアを活用した本事業の効果的な展開を図っております。今後も継続してお願いしております。また、外国人を含めた来園者へのサービス向上のためにトイレの改修設計業務に着手しております。

(3)番、オールあかいわ宣伝隊事業等についてでございます。

関西圏や首都圏の都市滞在者に向けて定住促進、企業誘致、雇用対策、観光物産などの各分野から成る宣伝隊を組織し現地で宣伝PRイベントを開催することで赤磐市の特徴や魅力、旬の特産品や得する情報などを紹介し、「訪ねていいまち！住んでいいまち！赤磐市」をキーワードに効果的な魅力発信を行うための催しを本年度は県内外で計画しております。現時点で決定している主なイベントの日程などにつきましては、資料記載のとおりでございますのでごらんください。

(4)番、海外市場における農産物の動向に係る勉強会についてでございます。

海外市場への情報発信等の取り組みの一環として、日本貿易振興機構岡山貿易情報センターによる海外市場における農産物の動向についての勉強会を開催する予定でございます。あわせて香港の総合食品見本市FOOD EXPO 2016の出展計画や昨年の出展状況について紹介いたします。日時は6月24日金曜日午後6時30分から。場所は赤磐市役所2階大会議室です。講師にジェトロ岡山貿易情報センター所長の高宮純一氏をお招きする計画です。

続きまして、(5)番、(6)番の20周年記念お笑い赤坂亭定例寄席とノルディックウオークにつきましては、どちらも5月28日日曜日に開催しまして、市内外から大勢の方の来場、参加をいただきました。資料の15ページにその写真をつけておりますので、こちらもごらんください。

商工観光課からは以上でございます。

○委員長（治徳義明君） ありがとう……。済みません。産業振興部が終わりましたらここで何か御質問等がありましたらお願いいたします。今の説明の中で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ないようでしたら、建設事業部。

はい、水原部長。

○建設事業部長（水原昌彦君） それでは、建設事業部のほうから1件御報告がございます。

5月29日に発生いたしました桜が丘東浄化センター汚水流出事故につきまして担当参与より御説明申し上げます。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、岩本参与。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） それでは、上下水道課より汚水流出事故につきまして報告をさせていただきます。

建設事業部資料の4ページをお願いいたします。

発生日時でございますが、先ほど部長が申しましたとおり5月29日日曜日、午前6時ごろ通報がございました。発生場所につきましては桜が丘東浄化センターでございます。事故の原因及び概要でございます。前日の28日土曜日の午後5時に管理委託会社の担当者が作業終了の際、消化槽への送水管のバルブを閉め忘れたことにより、消化槽から汚泥があふれ場内の汚水排水口から流れ出し、最終的に可真川へ流出したものでございます。事故への対応でございますが、管理委託会社による水路及び河川の清掃並びにバキューム車により吸い上げ作業を行い、地元区長さんに完了報告をいたしており、住民からの被害報告等は出ておりません。また、県への事故報告でございますが、県庁都市計画課下水道班と東備地域事務所地域管理課のほうへ報告書を提出いたしました。備前県民局環境課につきましては、報告書を提出し現地を確認して指導を受けております。流出量でございますが、これは推定でございますが、場内分を含めまして約9立方メートルでございます。バキューム車により吸い上げた量につきましては、清掃用の水を含めまして約111立方メートル回収いたしております。再発防止対策でございますが、1として、作業員1人で行っていたバルブのチェックを本社へバルブの停止確認ができる写真をメールにより送信し複数での確認を行う。2として、作業員の車の駐車位置をバルブ付近にして退場時に最終確認を行う。3といたしまして、警報装置の設置を検討する。さらに、オーバーフロー管の設置も検討いたします。

今後このようなことのないよう施設管理を十分行ってまいります。申しわけありませんでした。

以上で報告を終わります。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

これにつきまして質疑ございますか。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） これ地元区長っていうのは具体的にどこの区長さんなんですか。桜が丘のほうの町内会長たちにも話ししてくれてるんだろうか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 岩本参与。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 可真上の区長さんでございます。はい。

○委員長（治徳義明君） よろしいですか。

はい、金谷委員。

○議長（金谷文則君） これ前回もこれにあふれて流れてずっと事故があったと思うんですけど、そのときはたしか報告が議会なり議長なりも多分聞いとられるんじゃないかな。私らも聞いたんですけど。今初めてこの報告を聞いとる状況なんですけど、これは委員長の方は聞かれとったんですか。私の議長のほうには……。

○委員（佐藤武文君） あったあった。あった、報告。

○議長（金谷文則君） あったんかな。

○委員（佐藤武文君） あった。

○議長（金谷文則君） していただいたとしたら、私のほんなら思い違いだと思いますけど。

○委員（行本恭庸君） この件は初めて。

○議長（金谷文則君） 初めてでございますんで、済みませんが、していただいておって私がこんなこと言うもったんなら私の間違いなんで謝らせてもらいますけど。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 岩本参与。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） まことに申しわけございません。報告義務を怠っておりまして報告できておりません。

○委員長（治徳義明君） 金谷委員。

○議長（金谷文則君） 何も言いようがありませんけど、やっぱり何かあったら議会のほうへも話をさせていただくほうが、ここの地元の地域の人だけ知とられる議員さんも、そりゃ多分行本さん知とられたかもしれんけども、私たちも何かしら関係があるかもしれませんで、今後ありましたらきちっと連絡だけは少なくとも事務局のほうへいただけるようお願いをしたいと思います。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） まさに議長言われとるのなんじゃけど、これ可真の区長さんだけじゃなくて桜が丘も関係するわけだから、そこの町内会長にもちゃんとかういうことが起きたら話をしてほしいと思うんですけど、どうでしょうか。なぜしないんだろう。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。答弁をお願いします。いや、答弁は。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 岩本参与。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 流出の出口でございますが、桜が丘の団地外の農業用水が暗渠を通りまして排水をしております。その関係で一応可真上の区長さんのほうにだけ御報告をさせていただいております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 今後はどうされるつもりなんですか。今後もうこういうことが起きたら桜が丘には話をしないってということなんですか。

○委員長（治徳義明君） 岩本参与。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 状況に応じまして連絡のほうはさせていただくようにさせていただきます。

○委員長（治徳義明君） 澤委員。

○委員（澤 健君） 基本的にはこの間もおいの問題が出たりとか、東浄化センターについては連合町内会、東3丁目の町内会、非常に鋭敏な状況になってますので、こんなことがあったのかと、私きょう連合町内会がありますから話しときますけど。こういうことについて今までは説明がないと。状況について言うかどうかわからんという話があったと。今後はきちっと言うようにということ、今私要望はさせてもらいますんで。そういう話は連合のほうにきょう報告ときます。はい。

○委員長（治徳義明君） 答弁よろしい。

○委員（澤 健君） よろしい。

○委員長（治徳義明君） これにつきましては、よろしいですか、もう。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） そのほかに何かありましたら。

行本委員。

○委員（行本恭庸君） その他の。

○委員長（治徳義明君） その他。

はい。

○委員（行本恭庸君） 誰が質問したんか私も覚えてないんですけど、委員長じゃったかもしれんけど、有害の関係で猿の駆除の件で、猿を捕まえてGPSで位置を確認するんじやというような答弁もあったと思うんですけど、それいつごろやられるんですか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

若林課長。

○農林課長（若林 毅君） 以前は猿の行動を調べるためにGPSをつけて行動を調査するということを考えておりましたけれども、現在猿の出没の情報が大変多くて対策を何とかしてほしいというようなことがありますので、GPSの調査のほうはやめて、おりのほうを設置して捕獲のほうに取り組むように現在考えております。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 何でやめるんか私理解できんのんじや。ええ案を言われたな、私も、猿を捕まえて、大きな猿はいけんと思うんですけど、私の考えじゃ、小さい子猿を捕まえてそれにGPSをつけて、装置をつけて、猿が出てきたときに離して、集団の中にそれを、なかなか

かなじみが云々という問題もあるんですけど、恐らく小まいんじゃったら大丈夫じゃと思いますんで。とりあえず猿を捕まえてやるということは、おりをしてみたところではなかなか入りやあせんし。そりゃつけとっておりの中入る方法ができりゃあ一番いいですけど、私は猿を捕まえて、そんな猿を捕まえるのは別に神庭の滝に行っても、小豆島へ行っても猿はおるんじやから。そこで1匹、2匹もろうてくりゃええわけじやから。簡単に手に入るのに。今のを捕まえてじゃ、つけえというよりか、昔の熊山町時分には猿をおりで捕まえたら四国の小豆島へ持って行って放しようったということは私も聞いとりますから。へえで、あそこで受け入れてくれんなってそれをほかの方法へ変えたということは知っとりますけど。何で、やめる理由はよう私には理解できんのです。もうちょっとこうこうこういう理由でということの説明してもらえますか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ただいま御指摘をいただきましたGPSの活用についてでございます。そういうものを猿のほうに設置しまして猿の行動調査、これも非常に有効な手段であると考えております。ただ、これまでの取り組みを見ますと捕獲数も非常に少ないというような事例もございまして、本年度囲いわなというおりを当面導入いたしまして捕獲を最優先させ、こうした経過に基づきましてそうしたGPSを活用した取り組みを考えていきたいというふうに考えております。こうした政策展開におきましても、第1回の赤磐市鳥獣被害防止対策協議会、5月27日に開催されておりますけれども、こちらのほうで御協議いただきましてそういう展開を図っていくということで御了解をいただいております。やめてしまうというようなことではありません。そうした捕獲状況を見ながらそういう展開を図っていききたいと考えております。

以上です。

○委員（行本恭庸君） はい。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 捕獲の方法でというのは、前何かちょっと熊山の地域で聞いたことはあるんですけど、そういう計画があると。というのはその延長ですか。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） ただいま御質問をいただきました捕獲の延長ということでございますけれども、従前はイノシシのほか、このおりのようなものしか市内のほうに流通しておりません。囲いわなといいましてちょっと大きいわなでございまして、猿が入っていったら外へ出られないような、こういうわなを本年度は導入したいと考えております。

以上です。

○委員長（治徳義明君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 今熊山の、住所は吉原ですけど、区としては畑というところがあるんですが、そこに猿の捕獲する設備があるんです。じゃから、それと同じようなもんじゃないということ。あれは10メートル角ぐらいの、高さもかなり高いよ。

○委員長（治徳義明君） 図面か何か用意できないんですか。

○産業振興部長（有馬唯常君） 済みません、写真を用意させていただきます。

○委員長（治徳義明君） 写真でもいいですけど。すぐはもう無理ですか。

暫時休憩します。

午後1時18分 休憩

午後1時19分 再開

○委員長（治徳義明君） 再開いたします。

ただいま猿の捕獲器の写真の回覧をさせていただきまして、その上で質疑のほうを再開いたします。

○委員（行本恭庸君） まあやられえ。ええことにはならんと思う。

○委員長（治徳義明君） そのほかに。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（治徳義明君） はい。

○委員（澤 健君） 戻るんだけど、済みません、東浄化センターの汚水流出の話ですけど、これ場内の雨水排水口とか東3丁目のところも流れてるわけだから、桜が丘東3丁目の町内会長のほうにもやっぱり説明してほしいんです、おくればせではあるかもしれないけど。それやっただけませんか。

○委員長（治徳義明君） 答弁求めます。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） 岩本参与。

○建設事業部参与兼上下水道課長（岩本良彦君） はい、資料のほうを持ちまして説明にお伺いします。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

そのほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） その他についてもないようですので以上をもちまして第6回産業建設常任委員会を閉会としたいと思います。

○産業振興部長（有馬唯常君） 委員長。

○委員長（治徳義明君） はい、有馬部長。

○産業振興部長（有馬唯常君） 申しわけありません。その他の項で連携中枢都市圏の形成に向けた協議について御報告と説明をさせていただきたいと思います。

○委員長（治徳義明君） これですね、連携、済みません。

○産業振興部長（有馬唯常君） はい、よろしく申し上げます。

お手元のほうに資料のほうお配りしております。最初のほうに2枚のつけ紙、それからその後ろが別添1から別添5までの資料構成になっております。こちらのほう見てやってください。まず、表紙のほうです。

最初に概要についてでございますが、お手元の1番にありますように、岡山市を連携中枢都市とする連携中枢都市圏の形成に向けて岡山市、津山市等13市町の間で協議を進めているところでございます。平成28年度におきましては、8月に岡山市による連携中枢都市宣言、9月に各市町で議決を得て、10月に岡山市と各市町との間で連携協約の締結、翌年になりますけれども、3月に連携中枢都市圏ビジョンの策定を目指し岡山都市圏連携協議会を初めとして引き続き連携市町の間で協議を行うこととしております。

次に2番目、進捗状況についてでございますが、昨年6月に事業採択を岡山市が受けられまして、8月には第1回の岡山都市圏連携協議会を開催しております。ここでは、連携中枢都市圏の形成に向けた進め方や、各市町提案事業の検討状況について協議を行っております。また、10月から11月にかけて連携中枢都市圏の形成に係る基礎調査を実施し、公共施設等の利用に係る状況の調査、分析を行っております。また、住民や企業にアンケート調査を実施しております。1月から12月にかけて連携取り組み項目の一部試行実施ということでモニタリングツアーを実施しております。ことしの2月には第2回目の岡山都市圏連携協議会を開催しております。ここでは、昨年10月から12月にかけて実施しました基礎調査、モニタリングツアーの実施結果を初め、連携取り組み項目に係る協議経過報告、連携施策の概要説明、今後のスケジュール等について協議されました。

では、連携取り組み項目の事務事業についてでございますが、まず添付資料の別添3をごらんください。

タイトルのほうが連携取組項目（案）と記載された一覧表がございます。よければクリップを外して見ていただいたほうが見やすいかもしれません。

○委員長（治徳義明君） 別添3ですね。

○産業振興部長（有馬唯常君） 別添3のほうです。

○委員長（治徳義明君） はい。

○産業振興部長（有馬唯常君） こちらの一覧表、事務事業名41事務事業という項目がございますが、こちらの41事業の中で赤磐市として提案している事業、また参画している事業について現在各担当分野と岡山市との間で協議を進めているところでございます。赤磐市としまして

は、提案または参画している事業について抜粋したものが、最初の資料に戻りますけども、2ページ目になります。最初の表紙の裏になりますけども、こちらのほうに掲げております。

まず、提案している事業につきましては、資料のとおり7事業ございます。次に、参画している事業、中段になりますけども、こちらが12事業。この12事業のうち、このたび新たに追加して事業参画を検討しておりますものが一番下、5事業ございます。先ほど見ていただきました別添3の連携取り組み項目の一覧表、こちらの表のほうにつきましては、ただいま申しあげました5事業につきまして反映できてない状態の資料でございます。

続きまして、最初の資料の3ページ目の今後の予定のところでございます。

8月に岡山市による連携中枢都市宣言、9月には連携協約の締結に関する議決をいただくよう予定しております。以下、来年3月までの予定は資料のとおりでございます。

連携都市圏の形成に係る基礎調査結果についてでございますが、昨年10月から11月にかけて岡山市が実施したアンケート調査について赤磐市民及び赤磐市内の企業の回答について別添1の資料及び別添2の資料、こちらのほうで取りまとめを行っております。別添1のほうになります。こちらのほうが住民アンケートの取りまとめでございます。こちらの住民アンケートにつきましては、岡山都市圏内の住民の日常の生活圏域の把握と今後の地域づくりのために必要な取り組みの把握を目的として実施しております。都市圏内の20歳から70歳の住民の方々から無作為に抽出して約6,000名、赤磐市につきましては400人にアンケートを発送し226名の回答をいただいております。

3ページ、4ページをごらんください。

市町連携が求められる分野としまして、3ページは圏域全体の調査結果、4ページは赤磐市の調査結果となっております。この後資料はこういうような構成で全域の部分と、それから赤磐市部分、これ赤書きしておりますけども、こういうような資料の見方をしてやってください。この分野におきましては、医療、交通、公共施設で今回主な調査テーマとしているこの3分野への住民の関心の高さがうかがえる結果となっております。

5ページ目、6ページ目をごらんください。

公共施設の利用状況と利用頻度についてでございますが、公共施設の利用状況については、全施設を通じて使用したことがないが約半数となっております。施設ごとでは図書館が1カ月に1回程度以上の利用頻度が28.8%と他の施設に比べて高い施設となっております。

次に、7、8ページをごらんください。

公共施設の広域的な利用状況について各施設の利用率について示したものでございます。

図書館、スポーツ施設については岡山市の施設利用が20%以上、文化ホール、コンベンション施設については40%となっております。

次に、9、10ページをごらんください。

今後の公共施設について都市圏住民が望む維持管理方法について、圏域全体と同様に近隣市

町と施設を共同で利用が64.6%と最も高い比率でした。また、市町間で共同利用を進めるべき公共施設についても、圏域全体と同様にスポーツ施設が最も高い数値となっております。

11ページをごらんください。

高度医療機関の広域利用状況についてですが、赤磐市からは40%以上が岡山市に通院しております。

続きまして、資料13ページ、14ページをごらんください。

救急医療への不安と今後のあり方についてですが、赤磐市の住民が不安を抱える救急医療に関する不安について最も高かったのは、夜間休日の救急体制で58.7%でした。また、今後充実すべき医療体制については、最後まで住みなれた地域で療養できる体制が63.6%と最も高い数値でした。

15ページ、16ページをごらんください。

近隣市町村への交通手段の利用状況についてですが、圏域全体と同様、車利用が主なものとなっておりますが、路線バスについても広く利用されております。

続いて、資料17ページ、18ページをごらんください。

地域生活交通の利用と今後のあり方についてですが、地域生活交通を利用する理由として最も比率が高かったのは、自宅、目的地の近くにバス停があり便利という理由で64.3%でした。次いで、徒歩や自転車で行くには遠いが50%、自動車で送ってくれる人がいない、運賃が安い、自動車がない、免許がないと続いております。地域生活交通に希望することとしては、運行日、運行時刻の見直しが64.3%と最も高く、次いで現状の維持、運行経路の見直しとなっております。

続きまして、別添2、資料ほうをごらんになってください。

こちらについては企業アンケートの関係でございます。

企業アンケートにつきましては、岡山都市圏に本社を置く企業について経営状況や経営上の課題、公的産業支援策のあり方について把握することを目的として実施しております。調査対象となる企業から無作為に1,000社を抽出しておりますが、このうち赤磐市の企業32社にアンケートを発送し18社から回答を得ております。

では、資料2ページ、3ページ目をごらんください。

企業活動の状況について、最近5年の売り上げ傾向は増加傾向あるいは横ばいと回答した企業が約9割で、減少傾向と回答した企業は1割でした。今後5年間の経営戦略における課題としては、圏域全体と順位は同じで人材の育成が5割と最も多く、人材を経営戦略上の課題としている企業が多いことがうかがえます。

続きまして、資料4ページをごらんください。

企業活動における岡山都市圏域の強みについてですが、こちらは圏域全体の回答となっております。約5割の企業が交通の便がよい、あるいは災害のリスクが低いことを強みと考えてお

り、他の項目と比べて圧倒的に多い結果となっております。一方で人的な面につきましては低い結果が出ております。

次に、資料6ページ、7ページをごらんください。

広域的な産業支援ですが、広域的産業支援策として期待するものは人材確保に対する支援が33.3%、人材育成に対する支援が27.8%と、人材に関する項目が上位にあり、戦略上の課題と同様に人材確保や育成への期待が大きいことがうかがえます。また、広域的産業振興策についての関心度についても、最も関心が高いのはセミナー、研修会、次いで採用時の人材マッチング、専門家の派遣、相談制度と続いており、人材分野への関心が高い結果となっております。

ヒアリングの調査結果につきましては8ページから10ページにかけて記載がありますが、10ページをごらんください。

赤字の部分が赤磐市の企業が今後希望しております公的産業支援についての御意見でございます。また、岡山市連携中枢都市圏全体の概況としまして、別添4それから別添5の資料をお手元にお配りしております。別添5のほうでは、今後のスケジュールも含めまして一覧となっております。こちらのほう参考にまた後ほど見てやってください。

説明は以上です。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

ただいま連携中枢都市圏の形成に向けた協議についての御説明がありましたけど、何かこれにつきまして質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） ないようでしたら、その他何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（治徳義明君） もうないようですので、以上をもちまして第6回産業建設常任委員会を閉会としたいと思います。

閉会に当たり、内田副市長より御挨拶をお願いいたします。

○副市長（内田慶史君） はい。

○委員長（治徳義明君） 内田副市長。

○副市長（内田慶史君） それでは、本会議で付託されました議第43号及び議第44号、2件につきまして長時間にわたり審査をいただきましてありがとうございました。

審査の過程でいただきました御指摘等を踏まえまして今後十分なる説明、そして委員皆さん方の御意見、御提言をいただきながら、農業関係それから土木関係の行政の推進をしてまいりたいというふうに思います。

以上でございます。本日は大変ありがとうございました。

○委員長（治徳義明君） ありがとうございます。

皆様方には、本日は大変御苦労さまでございました。

これで本日の委員会を閉会といたします。皆様大変にありがとうございました。

午後1時36分 閉会